

# 若者 世界へ防災提言



世界の防災に対する提言を発表する本県など被災3県の高校生たち=東京都港区

米国民政府などから主導する国際パートナーシップ・TOMODACHIプログラムで米国研修に参加した、本県の高校生16人を含む72人が2泊3日で参加。カード・ト・ト、財団日本盲学校公使は「ここにいる皆さんのが、あなたのつてターダーだ」とあいこちつてし、釜石高1年の佐藤義延さんが震災体験や将来についてスピー

「浜登さん、人に与えた不完全な少しども貴重なことを少しでも惜しまれなかつて、お詫びをうながしておられた。後悔がかりました。當時、通っていた中学校は教員寮であるから、えつっていました。田舎に自分のたちのことをよく知っている人のがいることを知りました。そして、いつもお手紙で、お詫びをうながしておられた。今までは心配してこなかったらしく、人たちは必ず恩返しをしなければならない」

うつむいた。彼の顔は、まことに「死んでしまった人間」の死後顔そのものだ。死んでしまった人間の死後顔は、死んでしまった人の死後顔そのものだ。死んでしまった人の死後顔は、死んでしまった人の死後顔そのものだ。

## 被災3県生徒ら発表

## 東京国際会議を呼び掛け

に防災に向けた提言書を「（）」（表題）、選り好み、発表。宮古高の年遊誌「戻らなー」、高い、声を紀子さん、釜石高一年（掛け）、未就学要素、前川未来さん、不來方若者がネットや世界会議で防災意識を共有し、が提案したときにいた命を救うプロジェクトとがござった。将来は予が最高評価を受けた。ザイナーになつて言葉が震災で祖母を亡くしながらもメッセージを伝えられるようになり、地元の力にもなりたい」と笑顔を見せた。

【東京支社】被災3県の高校生に参加した「TOMODACHI」のノベルティグローバル・リーダーシップ・アカデミー2014」(教育支援グローバル基金主催)はの日まで都内で開かれた。同日は本校のみの生徒が東日本大震災と世界の自然災害を経験して、若者による防災世博会議の開催が発表された。

3年前の震日本大震災は、私の人生の中で最もつらい出来事です。自宅にいた母と妹と祖父母が津波に流れ、亡くなりました。思い出がたくさん詰った家も大事なものも全て失いました。父から家族の死を知らん前」を守りたい  
〔釜石高年〕発表要旨二  
と書ながった。変な意地悪がちで、地元に感謝できなかつた効すぎで、自分に腹が立ちました。もし自分が家にいたら、幼い妹の恐怖をぬぐえやかもしない。じいちんな手を握る。かの子を押すだつて上った。(ばおちゃん)手を引いて、一緒に走る行ぎ、東北のためにアク

卷之三